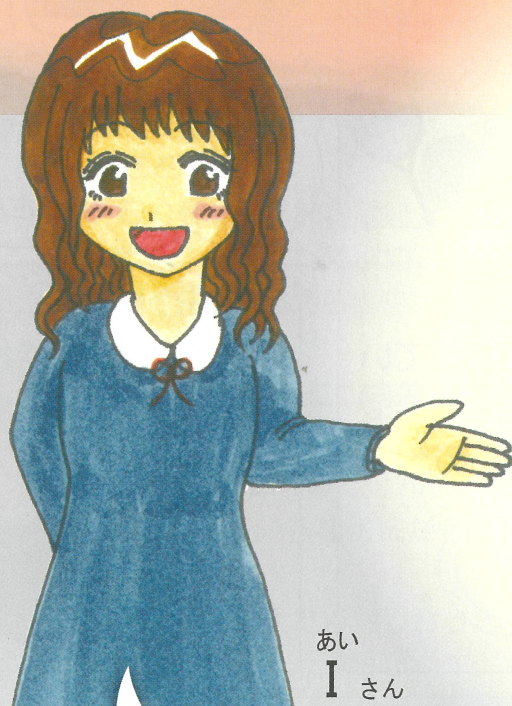
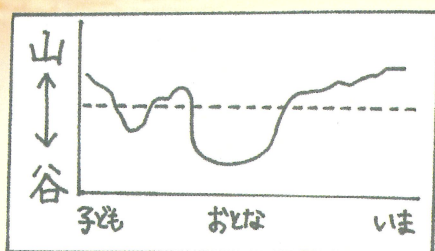
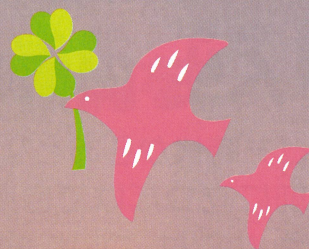
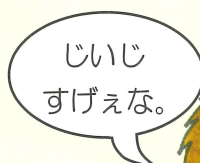


じん けん そん ちょう
人権尊重を

しつてゐるから
してゐるへ



あい
I さん



コー
甲 ちゃん



じん せい
人生、
やま たに
山あり谷ありや。
ようがんばって
きたんやなあ、
ワシ。

おとなになった頃
に
何かあったん？

そうやねん。
じつ
実はなあ…

これまでの人生を振り返ってみると、いろんな出来事が思い出されるものです。
もっとがんばればよかったと思うことも、もしかするとあるかもしれません。

でも、「努力は裏切らない」って本当にそうでしょうか？誰にでも、いつでも、
機会は公平にあるのでしょうか。ドアは開かれているのでしょうか。

自分を起点にしつつ、広く社会にある問題にも目を向けて考えてみましょう。

こう か し じん けん けい はつ きょう ざい
2024甲賀市人権啓発教材

ゆた じん けん ぶん か そう ぞう む
～豊かな人権文化の創造に向けて～

はつ こう こう か し こう か し きょう いく い いん かい
発行／甲賀市・甲賀市教育委員会

まん が ばん り
キャラクターイラスト・4コマ漫画：万渚

そのとき、ドアは開いた？

1. 人生 山あり谷あり、ドアもあり！

こども時代からおとなになった今日まで、人生いろいろなドアがあったことでしょう。その前に立つだけで自動で開いたドアもあれば、がんばって開けようとしたドアもあったでしょう。中には、ついに開けなかったドアも……!?

それらは、人生の「山」や「谷」と関係していたかもしれません。

10のドアをならべてみました。

「開いたなあ(その通り)」「ほぼ自動ドア」とか「開けなかったなあ(そうじゃなかった)」など、まずは心の中でふりかえてみましょう。

そして「そういえば…」と、思い出したことがあったら、ぜひ話を聞かせてください。武勇伝・苦勞話・他愛のない話など、どんなことでもOKです。



①のドア、はじめから開いてたわ。うちは、なかよし親子やし、よう話聞いてもらた♡ (Iさん)

① 親子関係ドア

親・保護者と苦勞することなくコミュニケーションできた。



② 塾・習い事ドア

やりたいと思う習い事や塾に通うことができた。



②なあ…。皆が行っている学習塾に行きたかったんやけど、いろいろあって… (YOUさん)

③ 家の用事ドア

(こどものとき)
家族の世話や家事は、おとなに任せておけた。



④ 危機管理ドア

夜遅くに帰るときにも、交通事故にさえ気をつけていれば大丈夫だ。



⑤ 恋愛ドア

互いに好き合っている人と、自由に恋愛できる。(できた)



⑥ 旅行ドア

一人で自由に行きたいところへ旅行できる。



⑦ 病院ドア

必要な時、行きたい病院に気がねなく行ける。



⑧ 就職ドア

努力すれば希望の就職先に入れると思う。(思った)



⑨ 周囲の目線ドア

周りの人から、温かい目で見られている。



⑩ 自分は何者ドア

性別・国籍・本籍・現住所など、アンケート項目には迷わず記入できる。



もれなく、すべての人に？

2. 想像してみましょう、ドアが開かない状況を。



努力をしても開かないドアがあると
したら…。それは、差別や排除の問題に
関係が深いと考えられます。

右は10のドアについて、人権課題を
例にあげて「開かないかもしれないド
ア」を当てはめてみたほんの一例です。
他にも、いろいろな状況が考えられま
す。

つづきを考えたり話し合ったりして
みましょう。

人権課題別に見てみると

人権課題※	開かないかもしれないドア
女性	③④⑥…
こども	①②③…
高齢者	⑥⑦⑨…
障がい者	⑥⑧⑨…
部落差別	⑤⑧⑩…
外国人	①③⑧…
性的マイノリティ	⑤⑦⑩…

※法務省「啓発活動強調事項」より抜粋

ドアを気にせず生きてこられたとしたら……

ドアが開く開かないは、人の社会的な立場をあらわしています。

もしもあなたが、「ドアの存在に気づかずやってこられた」または「ドアを気にしなくてもよかった」としたら、それはこの社会の多数派集団に属しているからかもしれません。

そんなふうに聞くと少し居心地の悪さを感じるでしょうか。でも大丈夫です。そのことに罪悪感を覚える必要はありません。なぜならその立場だからこそ、できることがあるからです。

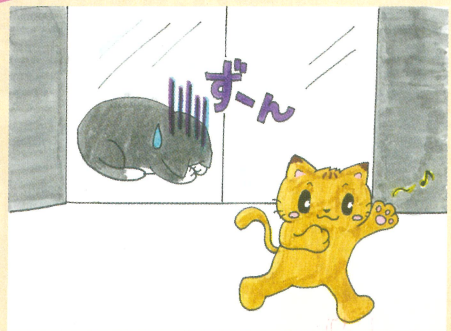
《3ページ解説へつづく》

社会の不正を解消しよう

知っているから

気づいたことがあるでしょうか、懸命に生きている日々の中
自分の前には、いつもの通りに開いた〇〇ドア。

あたりまえのように通り抜けたその後ろで
開かないドアの向こうにたたずむ存在に。たとえば



学校で...

「男子はズボン、女子はスカート」「男女どちらかに丸をして」「男子トイレと女子トイレ」
など、要求される男女の区別にみんながすんなり従う傍らで、
「どちらかに決めなきゃダメ！」というメッセージがしんどくて仕方ない存在に。

新居さがしの世間話で...

「そこって同和地区かも」という発言を聞き流してしまう人々のすぐそばで、
この話がどこへ向かうのか不安で、おもわず緊張してしまう存在に。

避難所で...

食料や毛布の配布についてアナウンスがあり、多くの人々が受けとりに並ぶすぐ後ろで、
そのアナウンスが聞き取れず、何が起きているのか戸惑う人の存在に。

これらの状況は、誰かが個人を差別したというできごとではありません。社会のしくみ
や人々の無知・無配慮が、人を排除したり生きづらくさせたりしているのです。

男女2択が当然という環境も、今なお部落差別意識が残る環境も、「聞こえる」「わかる」
があたりまえとされる環境も、人が安心して自分らしく自信をもって生きることを阻んで
います。

世の中の環境や制度は、社会の多数派に有利にできています。そうではない側が、「これは、
おかしい、是正すべきだ」「差別だ」と異議を唱えても、耳を傾けてもらえないことが多いば
かりか、ときには反感を買うことすらあります。なぜなら、多くの方は現状のままで特に困ら
ず自然で楽だと感じているからです。こうした状況が続くと、声をあげた人たちは疲弊したり
あきらめたりして、ますます社会は不公正になってしまいます。

だからこそ、多数派が広く社会のしくみに疑問を持ち、不公正を解消しようと行動すること
がもとめられています。不公正に苦しむ人たちは、それと向き合うことで精いっぱいかもしれ
ません。多数派こそが声をあげ、まだ気づいていない多くの人たちに伝えていくことに、大き
な意義や効果があります。

しているへ

アライ(行動する人)になろう！

アライの5か条

アライとは？

Ally(英語)：援助者、味方
社会の多数派・主流派でありつつ、
公正な社会をつくろうと行動を起こす人

1 社会をよくしたい

組織や社会をよくしたいという願いを持って生きている。自分も、この社会を構成している一人だから、できることはきっとある。

2 知ることから始める

どんな不公正が社会にあるのか、どんな人たちが抑圧されているのか、まずは知らないや何にも始まらない。

3 価値観をチェックする

無意識の思い込みは、自分にもあると知っている。日常的に身の回りの価値観をチェックする。はたしてそうかなと立ち止まる。

4 社会のしくみを読み解く

差別は、個人が「する・しない」の前に、社会の中にすでにある。決して公正ではないこの社会の実像を捉えることが大切だ。

5 声をあげる

日常の「おかしいな」をそのままにしない、見過ごさない。まずは「おかしい」と声に出してみる。自分の気持ちを伝えてみる。

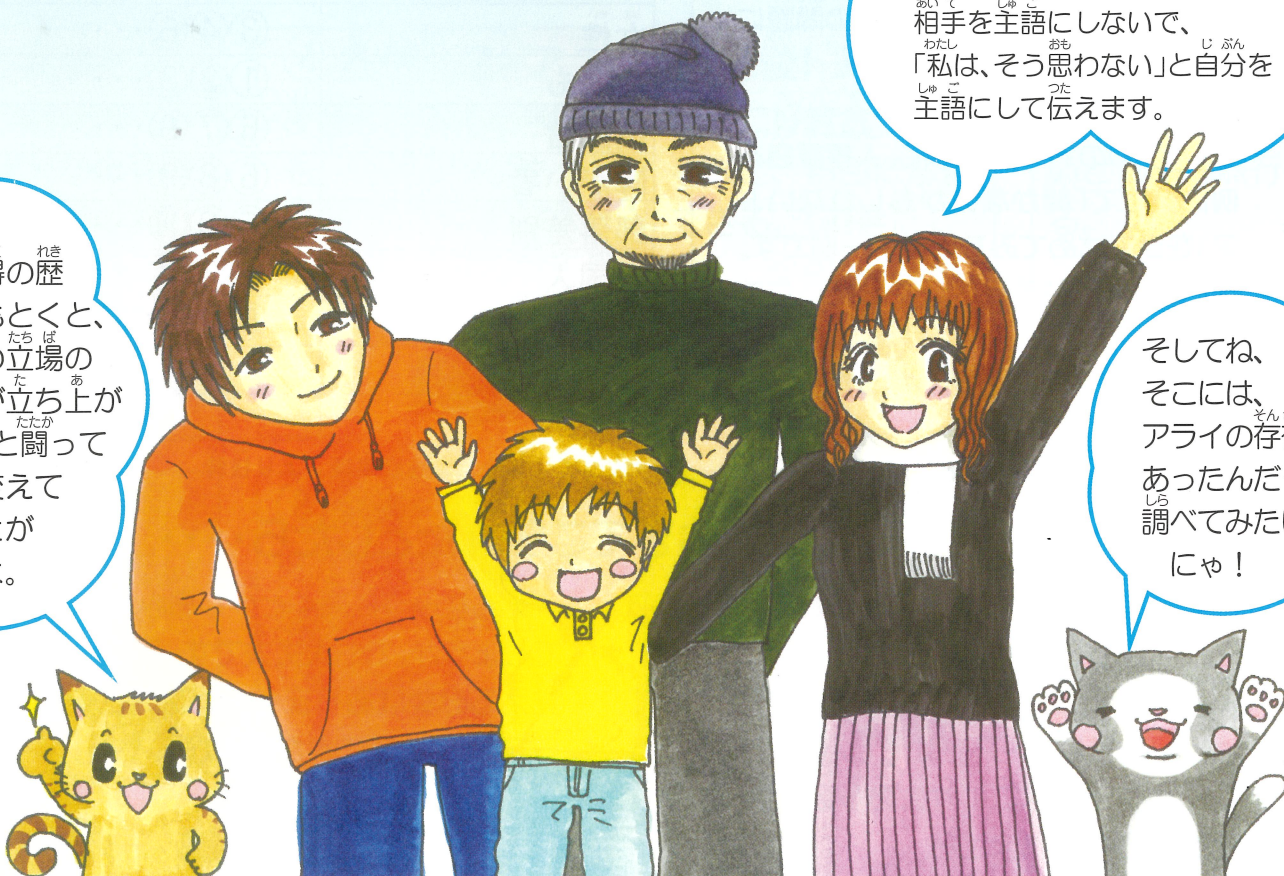
ちょこっとヒント
偏見や排除に気づいたら……

〇とりあえず止める
物事がエスカレートする前に、「ちょっと待って」と介入します。

〇「メッセージ」で伝える
「あなたは、間違っている」などと相手を主語にしないで、「私は、そう思わない」と自分を主語にして伝えます。

人権獲得の歴史をひもとくと、被差別の立場の人たちが立ち上がり、差別と闘って社会を変えてきたことがわかるよ。

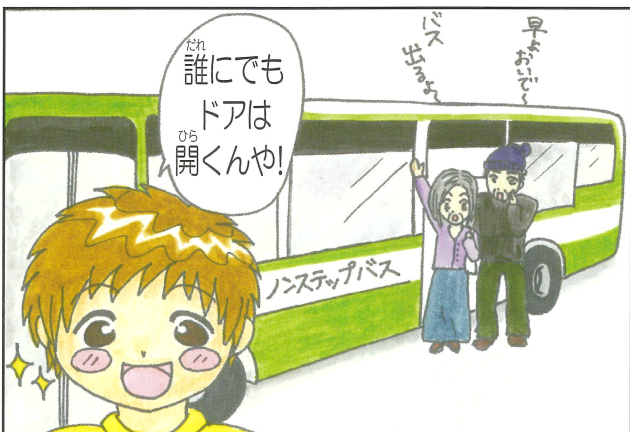
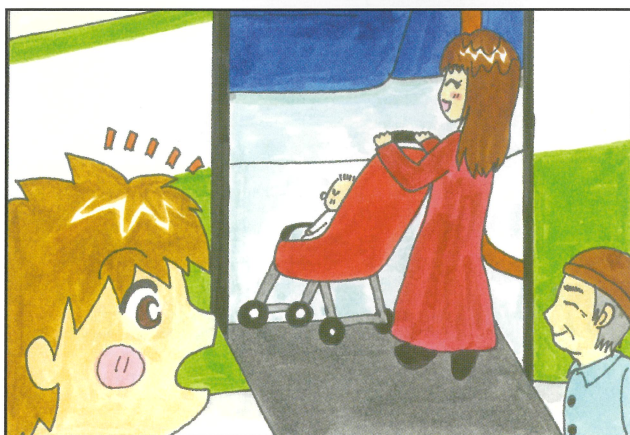
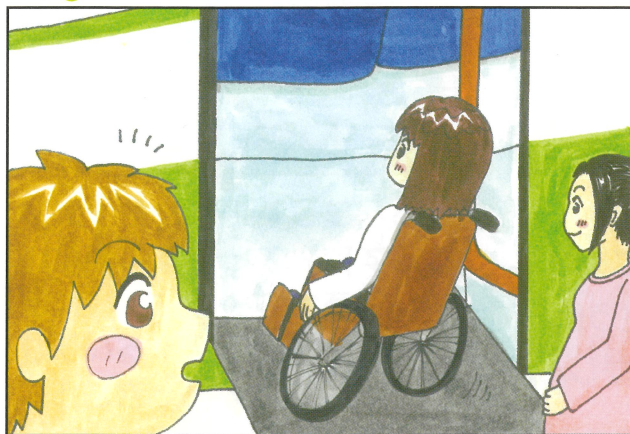
そしてね、そこには、アライの存在もあったんだって。調べてみたいにや！



かふーし！ 申ちゃん♡

『すごいドア、発見！』の巻

かふーし：沖縄のことば。「幸せ」とか
「ありがとう」の意味。語源は「果報」



ノンステップバスは、街中でも多く見られるようになりまし。高齢者やこどもだけでなく、補助スロープやニーリング装置（床面を更に下げる装置）により、車いすでの乗り降りもスムーズです。段差があることでバスに乗りなかつた人も、環境を変えることで行動の自由が広がります。

「障がい」とは、個人の内にあるのではなく社会の側にある障壁のことであり、その障壁を取り除いたり変更・調整したりしていこうとするこのような考え方を「障がいの社会モデル」といいます。

障がいに限らず広く他の問題においても、この「社会モデル」の考え方は活かされます。身の回りや社会の在り方を再点検し、誰にでもドアが開く地域社会を作っていくことが大切です。そのためにできることは、きっとたくさんあるに違いありません。

甲賀市人権啓発教材バックナンバー紹介

「あるあるすごろく de まじめなおしゃべり」

すごろくゲームをしながら、簡単なお題をもとに楽しくおしゃべりできる教材です。ゴールも勝ち負けありません。おしゃべりの中から浮かびあがってくる身近な人権課題について学ぶことができます。

あるあるすごろく de まじめなおしゃべり

スタート

ゴール

ルール

1. 犬を散歩。 (Walking the dog.)

2. そろそろ、お茶を淹れてみる。 (It's about time to brew some tea.)

3. 友達や仲間と遊んで。 (Playing with friends and companions.)

4. 我が家は、お風呂に入る。 (Our house is, taking a bath.)

5. 人に話して。 (Talking to people.)

6. 犬を散歩。 (Walking the dog.)

7. 犬を散歩。 (Walking the dog.)

8. 犬を散歩。 (Walking the dog.)

9. 犬を散歩。 (Walking the dog.)

10. 犬を散歩。 (Walking the dog.)

11. 犬を散歩。 (Walking the dog.)

12. 犬を散歩。 (Walking the dog.)

2017年甲賀市人権啓発教材「あるあるすごろく de まじめなおしゃべり」

2017年甲賀市人権啓発教材「あるあるすごろく de まじめなおしゃべり」

資料は甲賀市 HP
<https://www.city.koka.lg.jp/16589.htm>

